

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

3月1日 (No57・寒温寒温寒温号)

2010
*
3月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc-e-mansion.com/~eco/>



田の忍者だつし、
かっこいいなあ、
ボク、川の忍者！

写真：山崎光久

勝手にレッドデータ of 志木 (43)

タシギ

水谷たんぽを散歩していると、突然足元から「ジェツ、ジェツ」と鋭い鳴き声とともに飛び立ちます。大きさは約26cmでヒヨドリより少し小さい鳥ですが、長い嘴を泥の中に差し込んでミミズ類や昆虫類の幼虫などを食べます。別名「田の忍者」といわれ、枯れ草と同じ色をしているので見つけるのが大変です。

そんなタシギですが、4年ほど前までは柳瀬川の高橋と栄橋の間の中洲で10羽以上を見つけることができました。中洲の状況が変わり、最近ではあまり見られなくなりましたが、それでも見つければ、ゆっくりと観察することができます。

(山崎 光久)



1/10
(日)

県内一斉ガンカモ調査

毎年恒例の埼玉県生態系保護協会主催「県内一斉ガンカモ調査」が行われ、参加した同協会志木支部に調査協力をしました。

当日は気温5℃、柳瀬川の水温15℃と快晴で比較的穏やかな調査日になりました。志木大橋から市役所の先の新河岸川との合流地点まで約2kmを参加者12名で歩いて種類と数を数えました。

県内全体のカモは、16種37,152羽で、昨年17種34,881羽からは、1種類減、2,271羽増でした。県内全体で増加しているのは、今年度は従来あまり多く観察されなかった地点を削除し、あらたに多く見られる観察地点を入れたことによると思われます。

柳瀬川では、カモは3種140羽で、昨年と種数は2種類減り、数も約103羽減少で昨年の243羽を下回る過去最少でした。内訳は次のと

おりです。()は昨年

1. ヒドリガモ 56羽 (91羽)
2. コガモ 45羽 (64羽)
3. カルガモ 39羽 (30羽)

昨年観察されたマガモとオナガガモは観察されませんでした。一昨年にはハシビロガモとアメリカヒドリも観察されていたので、一昨年に比べれば4種類も減ったことになります。柳瀬川に限らず最近野鳥の数が大きく減ったように感じます。田んぼでもカエルやイナゴがほとんど見られませんが、野鳥たちのエサが自然界から減っているのが原因でしょうか。

今年は「生物多様性条約締結国会議COP10」の開催が名古屋で行われます。出来るだけ多くの動植物が生存する豊かな循環型の自然を守りたいと思います。(山崎光久)

2/6
(土)

冬の渡り鳥を見てみよう

こどもとおとなの自然塾(第4回)

当日は今冬一番の寒さで、終了直後からは歩くのも困難な強風が吹きましたが、幸いな事に観察会の開催中は寒くても風が弱い天候の中で行うことができました。集まったのはおとな12名と、こども2名の合計14名でした。

柳瀬川に沿って、カモ類では、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、セキレイ類ではキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ等合

計25種類の野鳥が観察されました。

柳瀬川できれいな野鳥といえば一番にカワセミ、二番にキセキレイ、三番にジョウビタキでしょうか、いずれもゆっくり観察することができました。また、タシギも見ることができました。

観察会ではカワウが魚を集団で捕る様子が観察されました。20数羽のカワウが川の上流から下流に向って魚を一斉に追込んでいました。まさに追込み漁そのものです。そのおこぼれを狙って、コサギ、アオサギ、ダイサギがカワウの行く手で待ち受けていました。カワウは何度か追込みを繰り返しましたが、それはなかなか壮観な景色でした。ダイサギが得たおこぼれの獲物は大きなボラのように、飲み込むのに大変苦労していました。

観察会の途中で天田代表から柳瀬川の特徴・河川敷の草の刈り残し・外来植物の駆除等について話をしてもらいました。(山崎光久)



2009年 柳瀬川ウォッチング(野鳥調査)の記録

2009年は11回の調査で54種の野鳥を確認しました。

引き続き渡り鳥のカモ類の減少が著しい印象があります。(毛利)

●調査方法

- 1) 毎月第3日曜日、午前9時～12時に実施(悪天候の場合は中止)
- 2) 一定の速度で歩きながら半径50mの範囲を目安に出現した野鳥の種名と数を記録。
- 3) コース
志木中学校前 → 高橋 → 栄橋 → 旧柳瀬川 → 高橋 → 柳瀬川旧堤防
→ 水谷田んぼ → 富士見橋 → 志木中学校前

※ 本調査は 1997年6月より行っています。

*主催=NPO法人エコシティ志木／(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

鳥名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 カイツブリ	2	0	0	0	0	-	0	0	0	0	2	3
2 カワウ	0	1	2	6	0	-	0	0	2	0	5	2
3 ヒドリガモ	2	37	33	1	0	-	0	0	0	0	18	36
4 コガモ	25	47	24	23	0	-	0	0	0	29	30	36
5 マガモ	5	2	1	0	0	-	0	0	0	2	4	0
6 カルガモ	22	14	8	16	12	-	43	2	9	30	38	18
7 オナガガモ	0	0	0	0	0	-	0	18	0	2	0	0
8 アオサギ	0	0	0	0	2	-	1	1	0	3	2	4
9 ダイサギ	0	0	2	0	1	-	0	0	3	1	1	1
10 チュウサギ	0	0	0	0	0	-	0	0	1	0	0	0
11 コサギ	2	3	0	3	3	-	4	2	3	2	6	5
12 ゴイサギ	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	2
13 セグロカモメ	0	1	3	0	0	-	0	0	0	0	0	0
14 イカルチドリ	22	14	2	3	0	-	1	20	10	34	35	29
15 コチドリ	0	0	0	0	0	-	3	0	0	0	0	0
16 イソシギ	4	4	6	1	0	-	0	1	1	6	2	5
17 キアシシギ	0	0	0	0	1	-	0	0	0	0	0	0
18 タシギ	1	1	3	6	0	-	0	0	0	0	0	3
19 オオタカ	0	0	0	0	0	-	0	0	0	1	0	0
20 チョウゲンボウ	0	0	2	0	0	-	0	0	1	0	0	2
21 キジ	0	0	0	2	3	-	1	0	0	0	0	0
22 キジバト	23	8	3	4	1	-	9	5	5	5	4	21
23 カワセミ	0	0	1	0	0	-	1	3	1	1	0	0
24 コゲラ	0	0	0	0	2	-	0	0	0	0	0	0
25 ヒバリ	2	6	5	4	2	-	1	0	0	2	0	3
26 ツバメ	0	0	0	14	20	-	36	30	23	0	0	0
27 キセキレイ	2	2	2	0	0	-	0	0	0	0	1	3
28 ハクセキレイ	13	16	13	3	2	-	8	1	2	8	16	18
29 セグロセキレイ	7	5	0	0	0	-	1	0	0	0	4	3
30 タヒバリ	16	16	6	0	0	-	0	0	0	0	3	9
31 ヒヨドリ	47	29	5	5	2	-	3	8	6	26	15	18
32 モズ	1	1	0	0	0	-	0	0	0	4	1	2
33 ジョウビタキ	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	3	1
34 ノビタキ	0	0	0	0	0	-	0	0	1	0	0	0
35 ツグミ	23	16	23	9	0	-	0	0	0	0	2	8
36 ウグイス	0	0	1	0	0	-	0	0	0	0	0	0
37 オオヨシキリ	0	0	0	0	13	-	7	1	0	0	0	0
38 セッカ	0	0	0	3	0	-	3	1	0	0	0	0
39 エゾビタキ	0	0	0	0	0	-	0	0	1	0	0	0
40 シジュウカラ	0	3	5	3	3	-	0	0	0	1	2	1
41 メジロ	0	0	0	5	0	-	0	0	0	0	0	0
42 ホオジロ	1	2	5	0	0	-	0	0	0	0	0	3
43 ホオアカ	0	2	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
44 カシラダカ	0	11	8	0	0	-	0	0	0	0	0	5
42 アオジ	1	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1
43 オオジュリン	0	4	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
47 コジュリン	0	0	0	1	0	-	0	0	0	0	0	0
48 カワラヒワ	18	123	21	10	0	-	2	4	9	3	6	9
49 シメ	1	2	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
50 スズメ	72	162	49	53	43	-	107	197	91	89	119	156
51 ムクドリ	85	97	68	24	41	-	24	3	47	8	17	41
52 オナガ	0	4	0	14	0	-	0	1	8	0	1	14
53 ハシボソガラス	8	6	1	1	6	-	2	1	0	1	3	3
54 ハシブトガラス	2	10	9	2	4	-	6	1	3	8	2	3
ドバト	0	12	3	23	0	-	10	0	0	2	0	0
アヒルの仲間	0	0	0	0	0	-	2	0	0	0	0	0

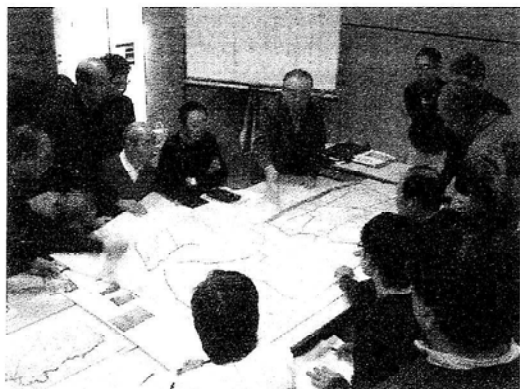
2/14
(日)

惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業

惣囲堤と水塚の文化に学ぶシンポジウム

生活協同組合ドゥコープ市民活動支援金助成事業

水塚調査員など19名が出席し、当会会員でもあり郷土史家・はたざくら保存会会長の尾崎征男さんを講師に招き、有意義なひとときを過ごしました。



自作の地図や江戸・明治時代の古絵地図を
テーブルいっぱいに広げての講演

後半のプログラムでは、今までの水塚調査の感想とこれから取り組みたいことをテーマに、2班に分かれて話し合いました。

貴重な水防遺産である水塚や樋門・輪中堤の保存が今後の課題であるという点が、参加者の一致した意見でした。

「特徴的な水塚の現物を保存すべき」

「精巧な模型をつくってはどうか」

「まだ訪問していない水塚がたくさん残っている。有志で訪問してみたい」

「家族で町の様子を話す機会が増えた」

などなど、たくさんの感想やアイデアが発表されました。

今後の取り組みのイメージが少し具体的にイメージできたシンポジウムでした。(毛利将範)

柳瀬川の工事について

2月下旬現在、柳瀬川の2ヶ所で、埼玉県による工事が行われています。

一つは志木大橋の下流から東上線鉄橋の上流までの間の浚渫工事です。流れの勾配が大変小さい新河岸川に比べ、狭山丘陵を源流とする柳瀬川は、全体としては大きな勾配で流れています。しかし、中流から下流へ下るにつれて勾配は徐々にゆるくなり、志木に入るあたりから急に大変ゆるい勾配になってしまいます。このため、上流～中流で大雨のたびに削られた土砂が下流に流され、志木では堆積する一方になっています。一部では低水路（普段水が流れている

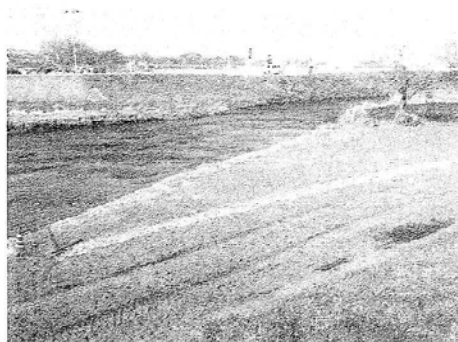
部分）の護岸が埋まったり水面下になっているところもあり、治水上問題なので1m程度掘削する工事です。

もう一つの工事は東上線鉄橋のすぐ下流で、低水路が志木側を侵食しつつあるので、将来的に問題にならないように籠マット工法（石を並べた上に針金による網を被せる）による護岸を築造するものです。護岸の前面は現状の水際線に合わせて流れとの間を土で埋めて仕上げますが、2月下旬時点でほぼ完了しています。

(天田 眞)



浚渫した土砂は左岸に山積みになっている



東上線下流の工事はほぼ完了している

11/15
(日)

志木市民まつり「カッパだよ全員集合」

主催：志木市市民まつり実行委員会（志木市・志木市商工会・志木市農業委員会・志木市観光協会・消費生活実行委員会・市内各種団体）
※市内各種団体として実行委員会に天田代表理事が出席

今年は会場を志木市民会館及びパルシティ通りに変更。天候にも恵まれ、暖かな日の開催となりました。同時にいろは遊学館では「環境フェア」が行われ、当会では両方の掛け持ちになりました。

市民まつりの方では、柳瀬川水族館とポスター展示で参加。当日、朝早く柳瀬川で捕ってきた魚たちの展示が珍しく、大勢の市民が見に来て興味を持ってくれました。

環境フェアは活動パネルの展示で参加しました。（山口美智江）

11/20 11/22
(金) ~ (日)

いろはふれあい祭り

主催：いろはふれあい祭り運営委員会（いろは遊学館利用者の会・志木小学校PTA・いろは遊学館・図書館）

いろはふれあい祭りは、学社融合を目指したお祭り。当会は柳瀬川水族館と活動紹介のパネルなどの展示で参加しました。寒い時期なのでお魚が捕れるか心配でした。

第1日目の午後は、志木小の児童全員が、参加団体の展示を見て回りました。ここでも水族館は人気が高かったです。当会でつくった「志木ぶらり散歩マップ」の小さな文字への対応にと虫めがねを用意したところ、いつの間にか小さな虫を虫めがねで観察している子どもたちがいました。



3日間の開催なので、生き物を捕る人、準備・説明をする人、利用者の会の模擬店（綿飴販売）に協力する、などで大変でしたが、当会の活動を発表する良い機会となりました。（山口美智江）

1/31
(日)

川の日ワークショップ関東大会でグランプリ！

1月31日(日)に大宮ソニックシティで開催した「第5回川の日ワークショップ関東大会」(事務局：NPO法人あらかわ学会)で、志木まると博物館「河童のつづら」として「志木の水防遺産」を発表したところ、見事グランプリを受賞することが出来ました。

第2回川の日ワークショップ関東大会では、志木まると博物館「河童のつづら」自体を発表して準グランプリを受賞していたので、この活動が進展していると評価いただいたのかもしれませんが。たいへん嬉しい限りです。

同じ新河岸川流域で活動する、柳瀬川流域柳瀬川流域水循環市民プロジェクト研究会の「新河岸川流域コミュニケーションマップ」も入賞しまし

た。ホームページ上に市民参加で地域のお宝マップを作成・データベース化する活動で、審査員の方々からは、志木まると博物館「河童のつづら」とのコラボレーションが期待されていました。

身近な川を通して、いろいろな可能性を感じられた貴重な一日でした。（伊藤智明）



当日いただいた賞状です

柳瀬川のお魚たち

海と川とを行き来する

NPO法人エコシティ志木事務局長

伊藤 智明

した香りはあまりしないようです。ただ、清瀬市と新座市の境界近くにある東京都清瀬水再生センター(下水処理場)を越えた上流では、そうした香りがするそうです。

晩秋に川で産まれて、すぐに海に降り沿岸の砂浜などで過ごし、春頃にまた川へ戻ってきます。朝霞市の黒目川で仔アユの調査をした際に、魚類の専門家である埼玉県環境科学国際センターの金澤さんのお話では、柳瀬川流域を含む新河岸川流域は、東京湾に降るアユの貴重な供給源となっているそうです。



【ウナギ】

体がヌルヌルしていて周囲が濡れてさえいれば陸上でも生きられるウナギは、手網で捕まえてもスルスルと簡単に逃げ出してしまう、よく悔しい思いをさせられます。

産卵場所は長年謎でしたが、2006年にグアム島やマリアナ諸島の西側沖のマリアナ海嶺の

↑ 黒目川での仔アユ調査のようす

NPO法人エコシティ志木と(財)埼玉県生態系保護協会志木支部で毎月第3日曜日に志木中学校付近で実施している「柳瀬川・川の生き物ウォッチング」では、表にあるようにこれまでに魚類が33種、甲殻類が5種、爬虫類が4種、見つかっています。

志木あたりの柳瀬川と新河岸川は、東京湾から堰や落差工がないため、海と川を行き来するお魚たちがいます。(国土交通省 川の防災情報ホームページにある「テレメータ水位 志木」では、柳瀬川と新河岸川の合流点近くの富士下橋下流の水位をリアルタイムで観ることができ、潮の満ち引きの状況を確認することもできます。)

そんな中で主だったお魚をご紹介します。柳瀬川もこうしたお魚たちを食べられるぐらいイイ川にしていきたいと願ってます。



【アユ】

柳瀬川で多くの釣り人が狙っているアユは、スイカやウリのような香りがすることから「香魚」と呼ばれる魚ですが、志木あたりではそう

柳瀬川の 魚類捕獲種

調査場所

志木中学校土手

採捕方法

手網、ときどき投網

リスト作成

小島敏文、伊藤智明

【魚類】

1. アユ
2. ウナギ
3. メダカ
4. ドジョウ
5. ナマズ
6. ギバチ
7. ボラ
8. スズキ
9. ヌマチチブ
10. ウキゴリ
11. スミウキゴリ
12. トウヨシノボリ
13. マハゼ
14. モツゴ
15. ウグイ
16. マルタ
17. カマツカ
18. ニゴイ
19. コイ
20. ギンブナ
21. ゲンゴロウブナ
22. キンギョ ※
23. タイリクバラタナゴ ※
24. オイカワ
25. カワムツ ◎
26. ハス ◎
27. タモロコ ◎
28. カダヤシ ※※
29. グッピー ※
30. オオクチバス ※※
31. ブルーギル ※※
32. カムルチー ※
33. クラリアス・バトラクス ※

【甲殻類】

1. ヌカエビ
2. テナガエビ
3. スジエビ
4. アメリカザリガニ ※
5. モクズガニ

【爬虫類】

1. ニホンイシガメ
2. クサガメ
3. ミシシippーアカミガメ ※
4. スッポン

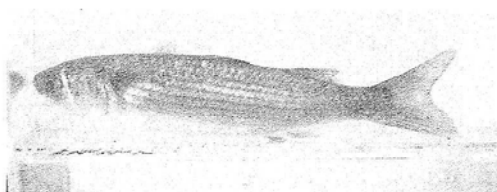
※印は外来種又はペット

※※は特定外来生物

◎は国内移入種

スルガ海山付近であることが、ほぼ突き止められています。

また長年困難とされていた完全養殖も成功するようになりましたが、莫大な費用がかかり成功率も低いため、まだ確率はされていません。そのため、従来のシラスウナギを海岸で捕獲し成魚になるまで養殖する方法は、天然ウナギの個体数の減少の原因となっています。

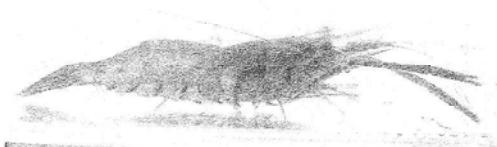


【ボラ】

2003年に目黒区から品川区を流れる立会川に大量遡上して話題となったのがボラです。世界中の熱帯・温帯の海に広く分布しますが、幼魚のうちはしばしば大群を成して淡水域に遡上するので、柳瀬川でも群れていたたり、飛び跳ねている様子が多く見られます。

他のお魚に比べ、胸ビレが目より高い位置にあり、空を飛んでいるように泳ぐ姿はとても可愛らしいです。体が大きくなると呼び名が変わる出世魚で、卵はカラスミの原料となります。

サギ類やカワセミ、アジサシ、ミサゴ、トビなどの魚食性の鳥はボラにとって天敵のようです。



【テナガエビ】

居酒屋でお酒の肴に出される川エビの唐揚げがテナガエビです。幼生は汽

水域～海まで降らないと成長できませんが、体長が5mm程になると川底を歩いて上って、その後は川で過ごします。寿命は環境による個体差はかなりあるようですが、1年～3年は生きるそうです。

縄張り意識が強く攻撃的なため、柳瀬川・出前水族館としてイベントなどに出す時は気を遣いますが、観に来られた方はテナガエビが柳瀬川にいることに驚き、喜ばれます。



柳瀬川の上流・金山橋下流の落差工

柳瀬川も上流の方には落差工があります。「アユが行き交う柳瀬川」を目指して、NPO法人エコシティ志木も加入する柳瀬川流域ネットワークでは、今年2月、清瀬市の金山橋下流にある落差工のアユ遡上対策として、東京都北多摩北部建設事務所に「稚アユの遡上成功率を向上するため、スロープ水路に連続的な隔壁や玉石の配置などの工夫」や「スロープ水路への横方向からの水の流入を抑制するため、両者の境界に仕切り壁を設置」などを提案しています。

【参考文献等】

フリー百科事典「ウィキペディア (Wikipedia)」ホームページ
山と溪谷社『ヤマケイポケットガイド17 淡水魚』
山と溪谷社『新装版山溪フィールドブックス2 淡水魚』

金子秀樹の 農業日記 〈5〉

今回は、12月に行いました大豆の収穫作業について書いていきたいと思います。

我が家大豆の収穫作業は、葉を落とし、根を切り鞘のついた茎をフェンスに括り付けます。これは、大豆の乾燥を速めると根に着いた土の除去の為にやります。このまま天候にもよりますが、2~3週間干します。（鳩やカラスよけの網をかけます。必需品）

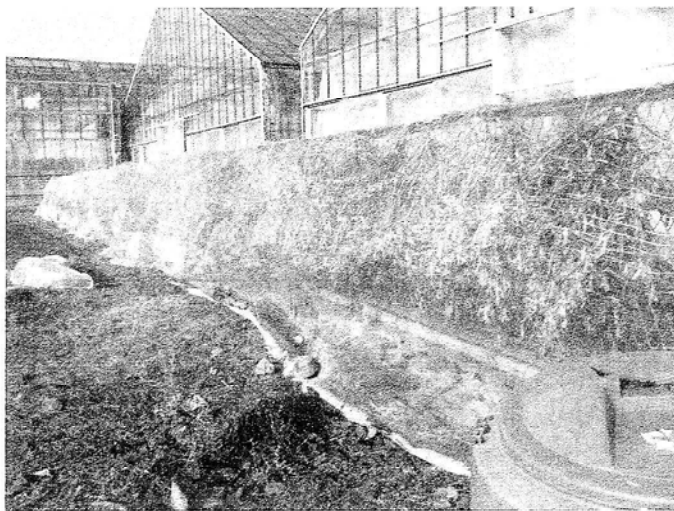
乾燥した茎をシートの上で「くるりん棒」（我が家での呼び名；写真参照）を使い、ある程度大豆を叩き落とした後、木槌等を使って丁寧に大豆を叩き落します。その後、唐箕（とうみ）を使って大豆とごみをより分けます。この時の埃がすごく、全身真っ白になります。

これで大豆の選別が終わったわけではありません。

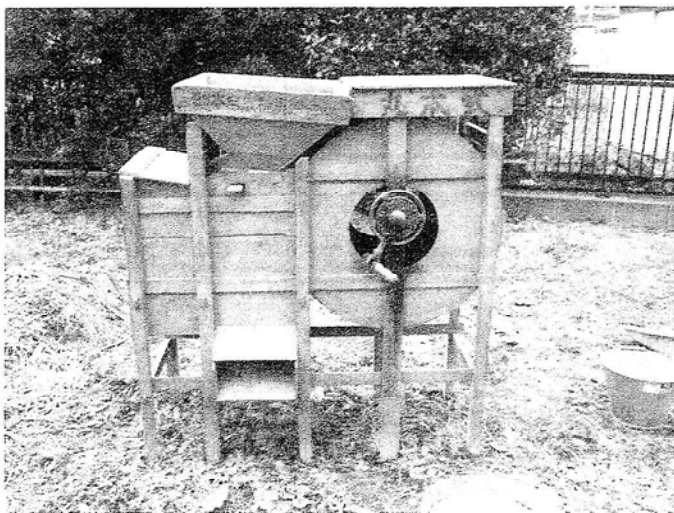
この後、天日で大豆を干しながら、屑大豆・ゴミそれから虫を取り除きます。干からびた虫から生きている虫も居ますし、大豆・ゴミなどを体に付けている虫もいます（毎年このことなので虫が動いていても驚かなくなりました）。今年は、17Kg程度採れました。今年大豆は葉が穴だらけで、収穫をあまり期待していなかったのですが、予想の他多く採れました。

採れた大豆は、水で戻した後、まめサラダ、大豆と鶏肉の煮込みなどとして、我が家の食卓を、半年に渡ってにぎわしてくれます。

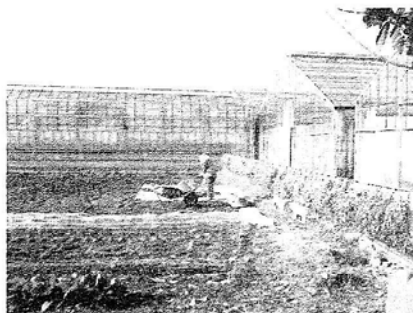
さて、稲作関連ですが、もう始まっています。すでに、荒川河川敷の野焼きが終わり、これからは、田んぼの耕作、畦付け、肥料蒔き、種まき、4月には、水路掃除と続していきます。



乾燥中の大豆



我家の唐箕（とうみ）



大豆のたたき出し



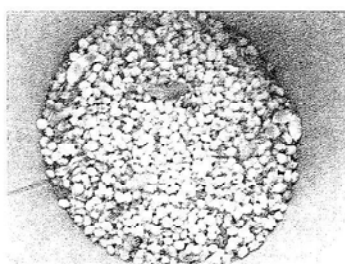
選別中の大豆



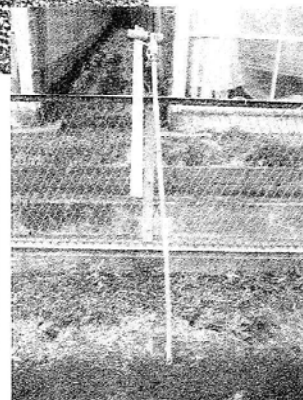
収穫大豆



唐箕後の大豆



虫食い大豆畑



くるりん棒

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email: qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://kappa-no.net/sizen-info.html>

《鳥類》

ノスリ(1) → 12月1日(火) 荒川堤外で [毛利将範]

モズ(♂1) → 12月20日(日) 柳瀬川ウオッチングで [山崎光久]

ゴイサギ(若1) → 12月20日(日) 柳瀬川ウオッチングで。栄橋のたもとの庭木に。

若い個体には全身に白い斑点があることから、それを夜空の星に見立てて別名「ホシゴイ」とも言います。

ハヤブサ(1) → 1月2日(土) 遅い初詣の後、午後1時45分ころ。幸町1丁目・東京電力の鉄塔の上のいつもの場所で [毛利]

オオタカ(1) → 1月17日(日) 柳瀬川ウオッチングで。旧ワイス前の斜面林上空 [山内さん・宇野さん]

カワウ(30～40) → 2月6日(土) こどもとおとなの自然塾「冬の渡り鳥を見てみよう」で、柳瀬川の志木中学校あたりに30～40羽のカワウの群れが飛来しました [伊藤智明]

ジョウビタキ(♂1) → 2月21日(日) 柳瀬川・野鳥&川の生き物ウオッチングで、水谷田んぼ脇の駐車場にて。ちょうど日本野鳥の会埼玉県支部の一行と出会い、大勢のギャラリーに囲まれても驚く様子もなく、というか好奇心旺盛にチョンチョンとすぐ近くまで近づいて愛嬌を振りまいてくれました。

チョウゲンボウ(2) → 2月21日(日) 柳瀬川・野鳥&川の生き物ウオッチングで。 [安本・石川・山崎・島田・本庄親子・毛利]

《ほ乳類》

ホンドイタチ(1) → 1月17日(日) 柳瀬川ウオッチングで。富士見橋の左岸の水谷田んぼの枯れたアシ原から出てきました [写真: 松田勝正]



ノスリ 12/1 (毛利)



モズ 12/20 (山崎)



ホンドイタチ 1/17 (松田)

環境 ひとくちメモ(16) 伊藤 智明

「生物多様性」



この地球上の生物は、科学的に明らかにされているだけで約175万種、未知のものも含めると3,000万種とも言われ、森林、湿原、河川、サンゴ礁など様々な環境があります。「生物多様性」とは、こうしたあらゆる生物種の多さと、それらによる生態系の豊かさやバランスが保たれている状態、さらに生物が過去から未来へと伝える遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念を言います。(特定の種類の生物が多い状態ではありません。)

1992年5月には「生物多様性条約」がつけられ、日本も1993年5月に締結しています。2009年12月末現在で、193の国と地域がこの条約を締結していますが、アメリカはまだ未

締結です。生物多様性条約の目的は、「地球上の多様な生物をその生息環境とともに保全すること」、「生物資源を持続可能であるように利用すること」、「遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分すること」としており、その10回目の締約国会議「COP10」が今年(2010年)10月に、愛知・名古屋で開催されます。

生物多様性の詳細については、以下のホームページをご覧ください。

・COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)支援実行委員会 <http://www.cop10.jp/aichi-nagoya/>
環境省 自然環境・生物多様性 <http://www.env.go.jp/nature/>

写真は、COP10支援実行委員会パンフレットより「3つの多様性」

☆会員状況

2009年度更新済み会員（2/24現在）

個人正会員 55（内新入会員3）

団体正会員 2

賛助会員 4（内新入会員1）

★本会の財政基盤は、
会員の方の年会費が
頼りです。

★今年度も継続更新
をよろしくお願いし
ます。

★宛名シールに会費
の有効期間が書いてありますので、
チェックしてください。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な 協力団体

いろは遊学館利用者の会

グループばんぽこ

(財)埼玉県生態系保護協会志木支部

志木おやこ劇場

志木市コミュニティー協議会

市内小中学校

新河岸川水系水環境連絡会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川流域川づくり連絡会（国土
交通省）

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

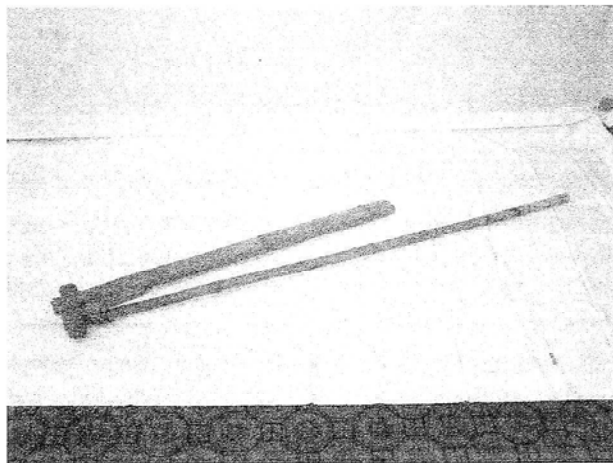
<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

志木市立郷土資料館の 農具 その10

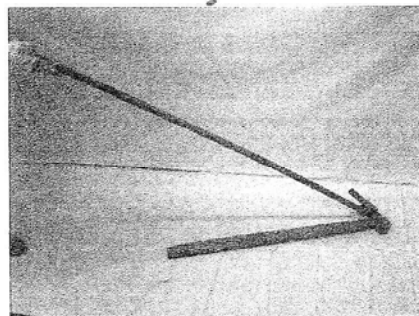
クルリボウ



稲や大豆、小豆などを脱粒するときに使われたが、センバや足踏み式脱穀機で完全に脱粒できなかった麦をクルリボウで叩いて脱粒するのにも使われた。この作業を「ボーチ」と言い、ムシロを庭に敷いてその上に麦や大豆を広げ、クルリボウで叩いた。また、大勢で作業すれば能率的なため、収穫時の農繁期には知り合いなどに声をかけ、お互いに助け合って行うことも多かった。

形状は、柄となる太さ3cm、長さ150cm程の真竹を、先端を火で炙って曲げ、一方、麦などを打つ回転棒は、長さ100cm、幅5～7cm、厚さ2、3cm程の桜の木で、これを連結する桜の木製の回転軸に取り付けたものである。また、回転棒は回転軸と一体になった自然木を使ったものや、雑木の枝などを使用したものなど、用途によっていろいろあった。

昭和20年代になって脱粒までできる動力式脱穀機の普及によってボーチは次第に行われなくなった。



【執筆・撮影協力】

志木市立郷土資料館

〒353-0002中宗岡3-1-2 ☎ 048-471-0573 月曜日休館

街で出会える楽しい虫たち

前回は蝶の仲間でもっと大きなアゲハチョウ科を取り上げたので、今回は蛾の仲間でもっと大型のヤマユガ科の中で志木でもよく見られるオオミズアオを取り上げます。

ヤマユギ科には他にヤマユギ・クスサ
ン・ウスダビガ等が含まれますが、いづれ
も都会では見ることが出来ません。しかし、
オオミズアオだけは都会でもある程度の緑
があれば生息しています。

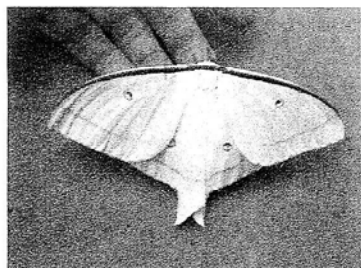
成虫は羽を広げた幅が10cm程あり、わずかに青みを帯びた白い羽根は暗がりの中で幻想的に美しく、私が最も好きな蛾です。幼虫は体長約70mm程の太いイモムシ型で、節ごとに背中が盛り上がり側面から見ると鋸歯状に見え、その歯の上には瘤があり、

まばらに毛が生えています。

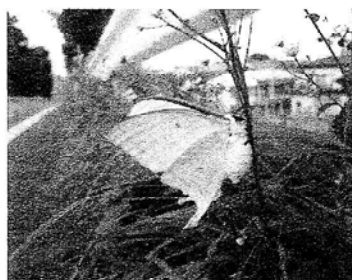
年に2回発生し、蛹で越冬しますが、樹木の下落ち葉の中などで周りに落葉を貼り付けた薄い膜の繭をつくります。

食草はサクラ、ミズキ、ヤマボウシ、ケヤキ、コナラ、カエデ等、比較的多種にわたります。

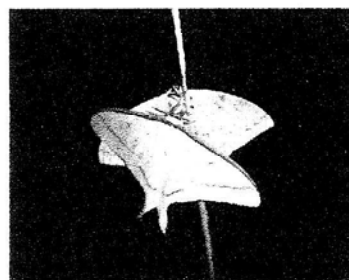
以前、夏の台風が近づいた夕刻、道路わきの草にしがみつき吹き飛ばされそうな羽化したばかりの雌を見つけ、家につれて帰りベランダに出しておきました。数時間後に見たところ、フェロモンに吸い寄せられたのか暗闇の中で6匹ものオオミズアオが乱舞している見たこともない光景でした。やがてそのうちの1匹と交尾に至りました。



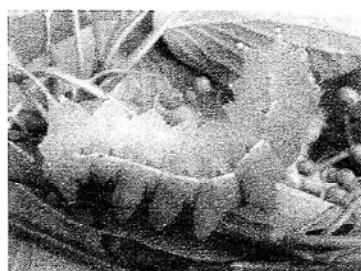
羽化した飼育個体



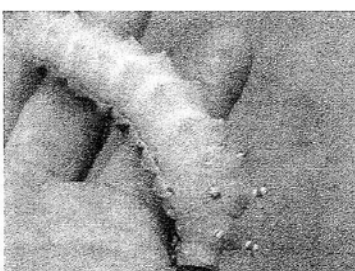
強風の中で草にしがみつく雌



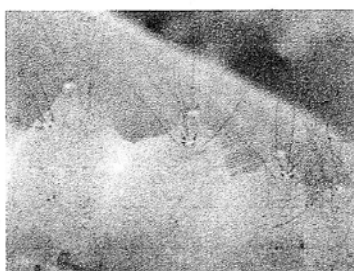
真夜中に交尾中



貫禄あるごつごつした体型



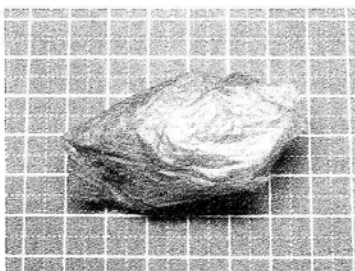
親指位の太さ、さわっても大丈夫



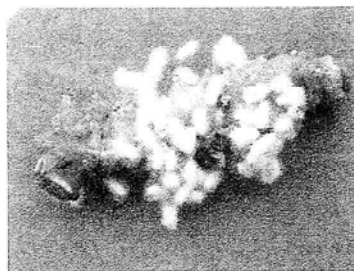
ギザギザの体とまばらな毛



口と接している足



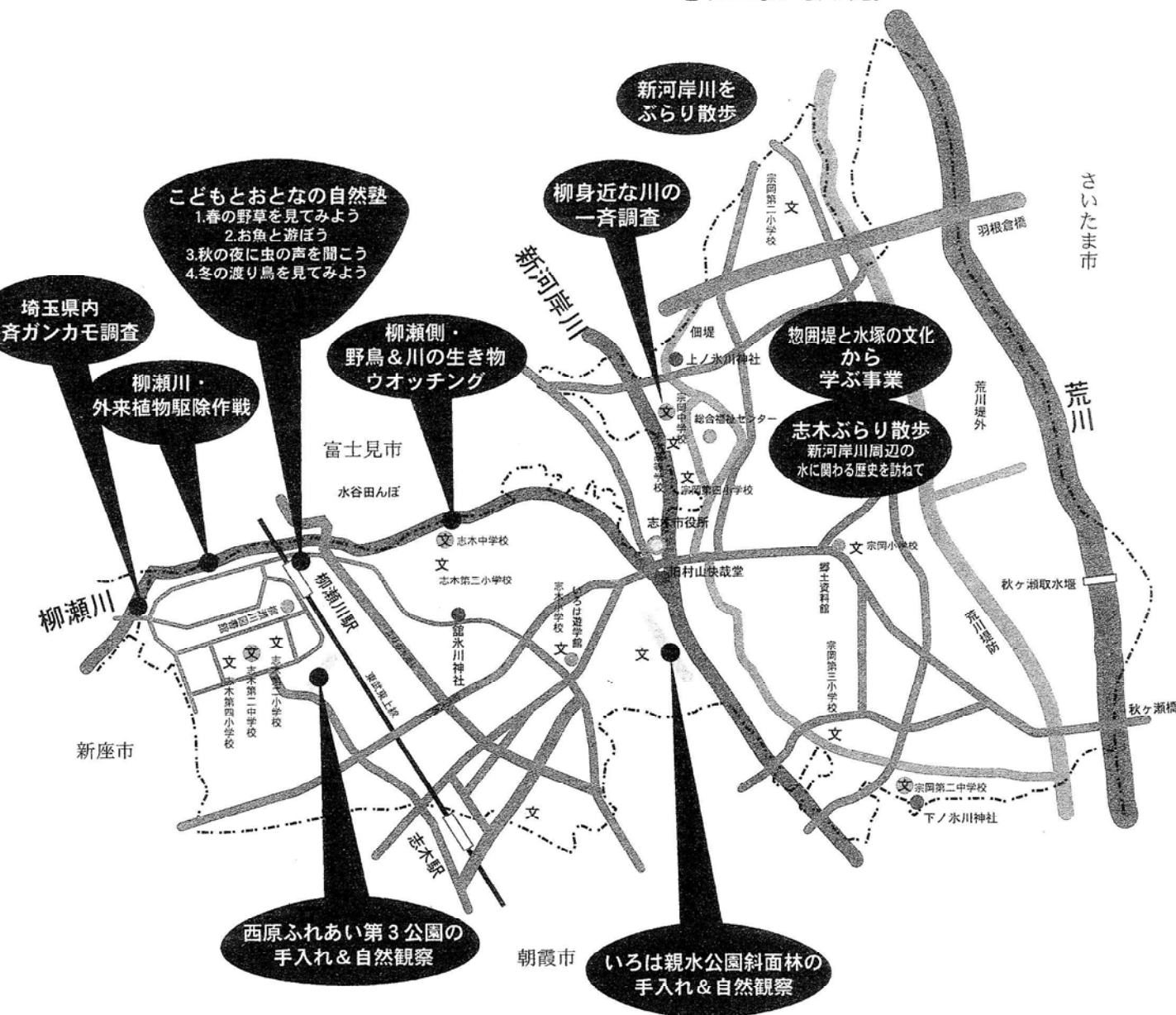
蘭の脱け殻



寄生バチに寄生された個体
(寄生バチは改めて取り上げます)

2009年度 エコシティ志木活動マップ

当会の主な活動をマップに落としてみました。
今年度は水塚調査で宗岡地区もかなり訪問し、市の全域に渡っていろいろな活動をおこないました。



編集後記

◇2010年度もうすぐ。当会も充足してから15周年を迎えます。市内の環境を守るために、今後も楽しい活動を続けていきたいと思います。

◇今の悩みは、スタッフ不足。現在新しい理事も募集しています。ふるってご応募下さい。
(ふくろう)

エコシティ志木通信

第57号・2010年3月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.c-mansion.com